

日本最大級の創作絵画コンクール 第18回ドコモ未来ミュージアム
2年続けてスタジオ地図の細田守監督が審査員に参加決定！
昨年大反響だった「細田守監督賞」を本年も選出！
～人気作品「サマーウォーズ」10周年記念プロジェクトとのコラボレーションも～

株式会社NTTドコモは、全国の子どもたち（3歳以上中学生以下）を対象にした、日本最大級の創作絵画コンクール『第18回「ドコモ未来ミュージアム」～みんなの想像力が、未来をつくる。～』の創作絵画作品を2019年6月1日（土）～9月6日（金）まで募集しています。

「ドコモ未来ミュージアム」は、未来をつくる子どもの夢を応援するため、ドコモが2002年から毎年開催している創作絵画コンクールです。「僕たち私たちの未来の暮らし」をテーマに、子どもたちが将来「こうなってほしい」と思うことや「こうしたい」と想像する未来の世界や希望を自由な発想で描いてもらっています。



第18回ドコモ未来ミュージアムでは、昨年に続き細田守監督に特別審査員としてご就任頂き、昨年大きな反響のあった「細田守監督賞」を本年も設定することが決定しました。受賞者には直筆イラスト色紙&スペシャルプレゼントを贈呈します。公式HPでは細田監督から本コンクール応募者のみなさまに向けた応援メッセージ動画も公開予定です。

さらに、細田守監督の人気映画作品の「サマーウォーズ」公開10周年を記念した、「サマーウォーズ10周年記念プロジェクト」とのコラボレーションも決定しました。「サマーウォーズ10周年記念プロジェクト」と協力し、子どもたちが“未来”を想像し、描くことを応援します。詳細は公式HPにてお伝えしていきます。

URL: <http://www.docomo-mirai.com/sw10th/>

ぜひ、多くの方々にドコモ未来ミュージアムへのご応募をいただきたく、ご案内いたします。告知のご協力・ご取材のほども、何卒よろしくお願いたします。なお、第18回「ドコモ未来ミュージアム」の詳細は別紙の通りです。

<報道関係のお問い合わせ先>

ドコモ未来ミュージアムPR事務局（オズマピーアール内） 担当：南部・奥秋
TEL：03-4531-0204 メールアドレス：dmm-pr@ozma.co.jp

<一般の方のお問い合わせ先>

ドコモ未来ミュージアム事務局 <http://www.docomo-mirai.com/>（スマートフォン・パソコンから）
フリーダイヤル0120-353-648（土日祝日を除く午前10：00～午後6：00）※ケータイ、PHSからもご利用になれます。
公式サイトURL：<http://www.docomo-mirai.com/>

<リリース素材ダウンロード>

URL：<http://ur2.link/aXwq> PASS:docomo 有効期限：2019年8月17日

■特別企画「細田守監督賞」概要

昨年度から引き続き、細田守監督が第 18 回ドコモ未来ミュージアムの特別審査員として応募作品の審査に参加。「細田守監督賞」受賞作品を 1 点選定します。受賞者には副賞として直筆イラスト色紙&スペシャルプレゼントを贈呈します。



細田守監督賞
大野瑠香 (11 歳) 神奈川県川崎市
「雲の上にかぶシェルター」
分かっていても止められない自然災害から身を守るために、雲の上に避難することができたらいいなと思い、空にかぶシェルターを考えました。

・細田守監督スペシャルインタビュー動画公開

細田守監督からの本コンクール応募者のみなさまに向けた応援メッセージ動画をドコモ未来ミュージアム公式 HP の『サマーウォーズ』10周年記念コラボレーションページで公開予定です。

URL: <http://www.docomo-mirai.com/sw10th/>

・「サマーウォーズ」10周年記念プロジェクトとのコラボレーション

2019 年は映画『サマーウォーズ』の公開 10 周年。そのアニバーサリーイヤーを記念し、『サマーウォーズ』10 周年《UP DATE》をテーマに、数多くのイベントが予定されています。10 年という月日を越えて、新たに《UP DATE》される『サマーウォーズ』の世界をお楽しみください。ドコモ未来ミュージアムも『サマーウォーズ』プロジェクトと協力し、子どもたちが“未来”を想像し、描くことを応援します。詳細は公式 HP にてお伝えしていきます。

『サマーウォーズ』公式サイト: <http://s-wars.jp>



<参考>細田守監督プロフィール

細田守 (映画監督)

1967 年、富山県出身。1991 年に東映動画 (現・東映アニメーション) へ入社し、アニメーターを経て演出 (監督) になる。1999 年に『劇場版デジモンアドベンチャー』で映画監督としてデビューを果たす。その後、フリーとなり、『時をかける少女』(06)、『サマーウォーズ』(09) を監督し、国内外で注目を集める。11 年、自身のアニメーション映画制作会社「スタジオ地図」を設立し、『おおかみこどもの雨と雪』(12)、『バケモノの子』(15) とともに監督・脚本・原作を手がけた。最新作『未来のミライ』(監督・脚本・原作) は第 71 回カンヌ国際映画祭・監督週間に選出され、第 91 回米国アカデミー賞®長編アニメーション作品賞にノミネートされた。

[別紙]

第18回「ドコモ未来ミュージアム」概要

“想像力が未来をつくる”

描くことで子どもは成長します。「ドコモ未来ミュージアム」は子どもたちの想像力を育てるお手伝いをし、未来や夢を描く力を応援する創作絵画コンクールです。

■応募対象

3歳から中学生（国籍不問、日本国内にお住まい、あるいは在学中の方）

■応募テーマ

「僕たち私たちの未来の暮らし」 ※本人が創作したオリジナル作品に限ります。

■作品送付先

〒105-0004 東京都港区新橋 2-16-1 7F ドコモ未来ミュージアム事務局

■応募期間

2019年6月1日（土）～9月6日（金）※締切日消印有効

■応募部門

【**絵画部門**】未就学児童の部（幼稚園・保育園児を含む）／小学校1～2年生の部／小学校3～4年生の部／小学校5～6年生の部／中学生の部

【**デジタル部門**】年齢別審査なし

■特別審査員

細田 守（映画監督）

■審査員

奥村 高明（日本体育大学 児童スポーツ教育学部教授）、城戸 真亜子（洋画家）、南雲 治嘉（デジタルハリウッド大学名誉教授）、文部科学省代表者、NTTドコモ代表者 [順不同・敬称略]

■用紙サイズ・画材

通常はがきサイズ（100mm×148mm）以上、画用紙四つ切りサイズ（540mm×380mm）以下。画材は自由。

■応募方法詳細

【絵画部門】

- 作品の裏面に「応募シート」を貼り付け、作品送付先まで郵送。「応募シート」は、「ドコモ未来ミュージアム」のパソコン版ホームページからダウンロードが可能。
- ダウンロードできない場合は、A4サイズの用紙に①応募部門、②作品名（作品説明がある場合は100字以内）、③郵便番号、④住所、⑤氏名、⑥年齢、⑦電話番号、⑧FAX番号、⑨在籍する学校名・学年を明記して代用。

【デジタル部門】

- パソコン版ホームページから、応募可能。詳しくはパソコン版ホームページ参照。
- 郵送の場合は、作品を出力（540mm×380mm以内）して裏面に「応募シート」を貼り付けるか、CDまたはDVDに作品データ（JPEG、GIF、PNG、BMPのいずれか）を記録し、データを応募者名で保存して、「応募シート」を同封し作品送付先まで郵送。

※絵画部門、デジタル部門ともに、応募者1人につき複数の作品応募が可能。応募作品は返却されません。

■賞品一覧

賞品	ドコモ未来大賞 ゴールド	ドコモ未来大賞 シルバー	審査員特別賞	細田守監督賞	入選	学校賞
副賞	賞状	賞状	賞状	賞状	賞状	賞状
	図書カード3万円分 自作品入り オリジナル記念品	図書カード2万円分 自作品入り オリジナル記念品	図書カード1万円分 自作品入り オリジナル記念品	直筆イラスト色紙&スペシャルプレゼント 自作品入り オリジナル記念品	自作品入り オリジナル記念品	学校備品 2万円分
	受賞者特典 表彰式および東京ディズニーリゾート®ご招待(ご同行者1名含む)					
絵 画 部 門	右記6名の中から1名を 文部科学大臣賞として 選出	未就学児童の部	1名	4名	1名	150名
		小学校1～2年生の部	1名			
		小学校3～4年生の部	1名			
		小学校5～6年生の部	1名			
		中学生の部	1名			
デジタル部門	1名	1名	1名	5名	47団体 各都道府県から 1団体	

■参加賞 オリジナル未来ノート

応募者全員に「オリジナル未来ノート」をプレゼント（※画像はイメージです）。



■受賞者特典

上位入賞者 18 名（絵画・デジタル部門のゴールド、シルバー、審査員特別賞、細田守監督賞）と、入賞者のご同行者（各 1 名）を、東京ディズニーリゾート® へご招待。

■学校賞

全団体様から都道府県ごとに学校賞を選出（47 団体）。賞状と 2 万円相当の学校備品を贈呈。

■結果発表

新聞紙上（掲載紙未定）および「ドコモ未来ミュージアム」ホームページで発表予定。

※発表時期については、決定次第「ドコモ未来ミュージアム」ホームページでご案内します。

■表彰式

2019 年 12 月 14 日（土）、東京で上位入賞者 18 名を招いて実施予定。

■主催 NTT ドコモ

■後援

文部科学省/全国連合小学校長会/全日本中学校長会/日本 PTA 全国協議会/

朝日新聞社/毎日新聞社/読売新聞社/日本経済新聞社/産経新聞社/北海道新聞社/東京新聞/北陸中日新聞/

中日新聞社/東奥日報社/デーリー東北新聞社/岩手日報社/岩手日日新聞社/秋田魁新報社/山形新聞社/

河北新報社/福島民報社/福島民友新聞社/下野新聞社/上毛新聞社/山梨日日新聞社/信濃毎日新聞社/

新潟日報社/静岡新聞社/北國新聞社/富山新聞社/北日本新聞社/福井新聞社/京都新聞/神戸新聞社/

中国新聞社/山陽新聞社/山陰中央新報社/新日本海新聞社/山口新聞社/四国新聞社/愛媛新聞社/高知新聞社/

徳島新聞社/西日本新聞社/佐賀新聞社/長崎新聞社/熊本日日新聞社/大分合同新聞社/宮崎日日新聞社/

南日本新聞社/琉球新報社/沖縄タイムス社/朝日学生新聞社

■協力 スマートスクール

【ご取材について】

以下のご取材をいただくことが可能です。ご希望の際はお気軽にお問い合わせください。

- ・これまでの受賞作品の撮影
- ・ドコモ未来ミュージアム担当者インタビュー
- ・その他、素材提供（表彰式の写真等）

<ご取材に関するお問い合わせ先>

ドコモ未来ミュージアム PR 事務局（オズマピーアール内）担当：南部・奥秋

TEL：03-4531-0204 メールアドレス：dmm-pr@ozma.co.jp

「文部科学大臣賞」



絵画部門 小学校5~6年生の部
伊規須 大斗さん (12歳) 茨城県龍ヶ崎市

「このままだと」

人間が環境破壊を続けていくうちに温暖化が進み、悪い環境にも耐える新しい生き物が生まれ、人間は悪い環境に対応できず絶滅する。そして地球が元のすがたにもどり、最終的には何も住めない最初の地球にもどると思います。そうならないように、人間はちゃんと環境のことも考えないとだめだと思います。



絵画部門 未就学児童の部
大川 志志さん (6歳) 長崎県諫早市

「海のホテル」

海のホテルがあったらいいな。あったら行ってみたいなと思い描きました。



絵画部門 小学校1~2年生の部
久保田 夏さん (7歳) 新潟県柏崎市

「幸運を呼ぶ くじゃく」

くじゃくの輝く様に美しい羽がアヒルでいっぱいになった未来型のくじゃく。



絵画部門 小学校3~4年生の部
馬場 晴也さん (9歳) 鹿児島県奄美市

「台風そうじき」

毎年、たくさんやってくる台風を消したいという気持ちでそうじきを使い、すいとれないかと思いました。



絵画部門 中学生の部
北居 由鈴名さん (15歳) 兵庫県西宮市

「APES=動植物環境サミット」

環境問題はもはや人間だけのものではない。未来では地球上の生物が一丸となって解決していく体制が整っている。ナマズは地震、植物や鳥は大気・・・といった特有の情報と気持ちが翻訳され、美しい地球のために話し合う。



デジタル部門
水野 愛理さん (14歳) 岐阜県多治見市

「こえる」

「次元」そして「時代」の枠をこえる装置があれば、太古の生き物や存在しない物であっても、この三次元に出てくることができます。

■第17回審査員コメント（一部抜粋）

映画監督 細田 守氏

今回たくさんのお応募作品を見ましたが、絵というのは描いている人を表すと思います。

私も小さいときから絵を描いてきて、やっぱり、その時に思っている気持ちが、言葉や態度よりも、より素直に出るのが絵だと感じます。

1 作品 1 作品見ながら、みなさんが未来や社会、これからの世界というものをどういう風に見ているのか、とても素直に伝わってきました。ああ、この子はこういう風な世界と未来の捉え方をしているんだな、と伝わってくるのが、とても見ていて楽しかったです。

是非、これをきっかけに、絵を描くことを通じてたくさん未来について、そして世界について考え、それを素直に表現することを続けていただきたいと思います。

日本体育大学 児童スポーツ教育学部教授 奥村 高明氏

ここ数年、出品される作品の様子がずいぶん変わってきました。審査員の想定を超えた作品に数多く出会えるのです。

身近な動物だけでなく微生物や植物も含めた生態系全員で話し合う環境会議、介護や災害など社会問題にアプローチするデザインなど、自分の選んだ主題について、より深く、より創造的に解決方法を考えています。

表現方法も同じです。規則正しく並べられた果物、画面いっぱい描かれた自動販売機など、自分の思いを強く伝える構図が工夫されています。ペンの特徴を生かして自分にしか描けない描き方をしたり、自分らしい色彩感覚で彩色したりするなど、思う存分に、創造的な技能が発揮されています。

おそらく、子どもたちの創造力が大きく伸びているからでしょう。子どもたちの資質や能力は時代とともにあります。時代の変化にともない道具やシステムが進化すれば、子どもたちの能力も進化します。新しい時代に入りつつあることを子どもたちの絵から感じた今回でした。

デジタルハリウッド大学名誉教授、中国メディア大学教授

一般社団法人 国際カラーイメージ協会 理事長 南雲 治嘉氏

毎年「ドコモ未来ミュージアム」のコンクールで感じるがあります。描画はこれまでと同じものがなく年々成長し続けているということです。皆さんの絵はその時代を映す鏡だと言えます。型にはまらずに伸び伸びと描かれた作品を見ていると未来に対する希望が湧いてきます。

私が担当したデジタル部門では、画期的なことが起きました。スマホで描画し、応募してくれた作品があったことです。デジタル表現がまさに片手でできる時代の到来を告げているかのような出来事でした。デジタル表現と通信が合わさると、絵によるコミュニケーションが発達します。それは、家族を結びつけ、世界中の人たちと絵によってつながることができることを意味しています。絵は人の心を動かすためのものです。それは感謝であったり、感動であったりします。そして、はるか未来にまであなたを連れて行ってくれます。大人になって、その作品に触れたとき、それを描いたときとつながります。皆さんの絵に対する情熱を心から応援しています。